



原子力発電環境整備機構

2018年度の対話活動について

2019年2月16日（土）
原子力発電環境整備機構（NUMO）

NUMOの対話活動（全体像）

一人でも多くの皆さまに地層処分事業に関心を持っていただけるよう、全国的な情報発信活動と並行して、各地域における対話活動に様々な方法で取り組んでいます。

多様な方法による情報発信活動

- 海外の取り組みに関する情報提供
- 地層処分模型展示車「ジオ・ミライ号」等の出展
- Webメディアを活用した情報発信

次世代層・女性層向けの活動

- 教育関係者向けの取り組み
- 出前授業
- デイバート講義への協力
- デジタルハリウッドとの協働

フェイス・トゥ・フェイスの対話活動

- 「科学的特性マップに関する対話型全国説明会」の開催
- 学習支援事業
- 地域の自主的活動への協力
- 地域の諸団体への出前説明会

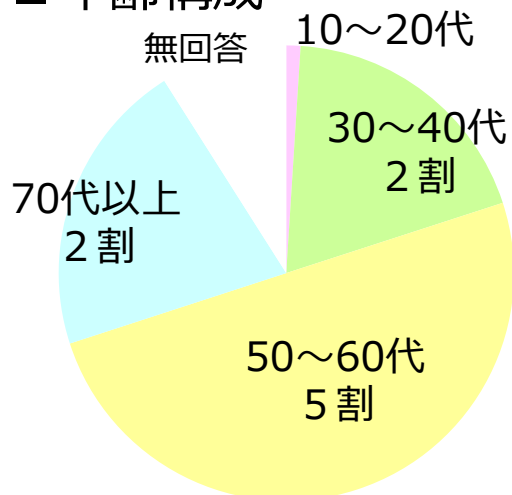
対話型全国説明会の開催概要①

時期：2018年5月～（2019年1月まで）
場所：全国41カ所で開催。5～8月 都道府県庁所在地（22会場）、
10月からはそれ以外の都市を中心に実施（19会場）。
参加人数：計 842名（最少 7 名～最多49名。 1 会場平均20名）
報道関係：計 178社

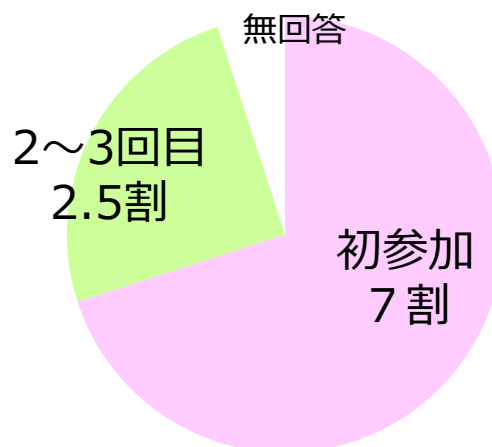


- 地層処分の仕組みや地域の科学的特性、処分の実現に向けた地質環境に関する調査プロセスについて、より一層ご理解を深めていただくことを目的に実施。
- 職員による手作り・直営の実施を基本とし、参加者の目線で会場ごとに説明会の内容を柔軟に設計し、フェイス トウ フェイスによる双方向の対話に取り組んでいる。

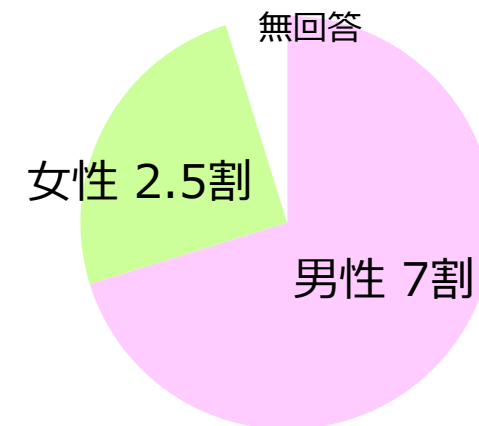
■ 年齢構成



■ 参加回数



■ 参加者性別



■ 参加者アンケート結果

＜地層処分事業について＞

- ・「地層処分が最も適切な方法である」、「地層処分は必要である」、
「地層処分は安全に実施できる」、「地層処分を進めることに賛成である」
・・・ 2割から3割が、「そう思う、どちらかといえばそう思う」と回答
- ・「地層処分に協力する地域に対して、敬意や感謝の気持ちを持つことが重要」、
「同地域に対して、経済的・財政的な支援を行うことは適当」
・・・ 3割から4割が、「そう思う、どちらかといえばそう思う」と回答

＜説明会の開催を何で知ったか（認知契機のランキング）＞（2018年10月～2019年1月）

- ①新聞・テレビ等の報道
- ②友人からの紹介
- ③新聞広告、SNS
- ④NUMOのホームページ

対話型全国説明会の開催概要③

＜参加者から寄せられたご意見＞

■ 地層処分全般について

- ・専門家の人に直接詳しい話が聞けて疑問を解消できた。できれば身近なところで地層処分が行われたらと思う。
- ・処分場の場所を決めるために説明会を開いているのではないか。

■ リスクと安全性について

- ・放射能はどうしても発生するので処分方法が大切。またこのような機会があれば、ぜひ参加したい。
- ・数万年も先まで安全を保証することはできない。なかなか安心できない。

■ エネルギー政策や今後の進め方等について

- ・原発推進、脱原発にかかわらず地層処分事業は必要。
- ・まず原子力発電を止め、これ以上廃棄物を増やさないようにすべきではないか。
- ・大半の人は地層処分の問題に関心である。そういった人にどうアプローチするか考えてほしい。

■ 説明会の運営等について

- ・とても分かりやすく興味深かった。1人1人の質問にもしっかり答えてくれて、良い印象を受けた。
- ・最終処分は大事な問題なのに参加者が少ないと思う。広報が足りないのではないか。

対話型全国説明会の開催概要④

■ 少人数でのグループ対話

- ・各テーブルで6～7人の参加者と国・NUMO職員とのグループ質疑により、対話の充実を図っている。
- ・模造紙と付箋を活用して議論を進めることで、参加者の興味や関心に合わせて漏れなく回答している。

<参加者から寄せられたご意見（グループ質疑について）>

- ・「質疑できる機会をいただけて理解が深まった」
- ・「他の考え方の人の話を聞くことができた」
- ・「担当の人とざっくばらんに話すことができた」

各テーブルごとに
担当者が回答

<NUMO職員に対する評価（参加者アンケート結果より）>

「説明が分かりやすい」、「説明を理解できた」、「誠実だった」、「身近に感じた」
…… 5割から6割が、「そう思う、どちらかといえばそう思う」と回答

参加者の質問を
付箋で整理

■ 職員の対話能力の強化に向けた取り組み

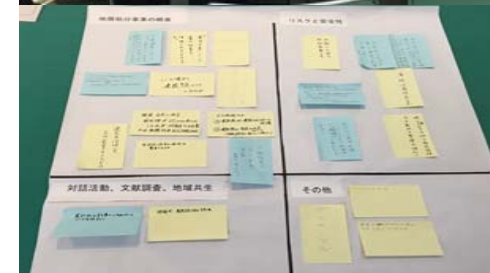
○ファシリテーション&ロールプレイ研修

説明会参加者の地層処分に対する感情や意見をより理解するため、NUMO職員が一般参加者役となって質疑応答を行う。

○深掘会

技術職員を講師としたリテラシー向上研修を実施。

⇒地層処分技術について平易な言葉で説明するトレーニングとしても効果的。



説明会を模擬した、職員同士での「ロールプレイ研修」

対話型全国説明会の開催概要⑤

対話活動改革アクションプランを踏まえ、新たな試みを実施。

■インターネットによるライブ中継

会場まで足を運ばない方にも説明会の様子を届けるため、インターネット生中継により幅広い情報発信を実施。

・北海道説明会（2018年7月6日） 最大同時接続数 59、累計視聴回数 591（延回数）

■駅前でのブース出展

説明会の会場近傍で広報ブースを出展。説明会の告知を行うとともに、説明会に参加しない地域の皆さまに地層処分に対する認知や関心の向上を図る。

多くの人が行き来する駅に出展することで、「NUMO」・「地層処分」が目に残る取り組み。

・石川説明会PRブースの出展

2018年7月19日～20日

金沢駅東もてなしドーム地下広場

来場者：58名

・北九州説明会PRブースの出展

（※説明会は、台風のため開催中止）

2018年9月22日～23日

小倉駅 3階JAM広場

来場者：329名

■VR（バーチャル・リアリティ）体験コーナーの設置

スイスの地層処分実施主体であるNagra社の協力を得て、同社が広報活動に使用しているVR動画の日本語吹き替え版を制作。説明会会場にVR視聴機器を持ち込み、このVR動画を説明会の開会前や休憩時間を使って、参加者の皆さまにご覧いただいている。



学習支援事業

■ 地域団体の学習活動を支援

地層処分について、自主的に学習したい地域団体等に対する支援を実施。
2018年度は、より柔軟な支援ができるよう以下の2つの支援を展開。

○ 選択型学習支援（単年度）

初めてでも申込みがしやすいよう、あらかじめ学習活動のメニューを用意。
例）講師派遣による勉強会、施設見学会など

○ 自主企画支援（複数年度）

過去に地層処分に係る学習実績がある方を対象に、さらに理解を深めるための自主的な活動を募集。学習内容を自由に考えていただき、様々な活動を実施。例）地域における学生を対象としたワークショップなど

＜全国の支援団体が一堂に会する**全国交流会**を開催＞

・2019年2月16日（土）13時より AP浜松町

・パネルディスカッション

「自分事として考えていただくために何をすべきか」

パネルディスカッションは、インターネットによるリアルタイム配信を実施。

今年度は全国各地から約80団体が参加。主な支援団体は、
地域NPO法人、商工団体、環境団体、消費者団体、学校・教育関係等



施設見学会の様子



勉強会の様子

国際講演会の実施

「原子力と最終処分に関する日本・フィンランド共同セミナー」

日時 2018年4月12日（木）13:00～17:30
場所 建築会館ホール（東京都港区）
主催 日本：資源エネルギー庁、原子力発電環境整備機構（NUMO）
フィンランド：雇用経済産業省、Posiva、Fortum

概要 日本、フィンランド両国の原子力分野における経験と教訓に関する講演に加え、フィンランドで先行する放射性廃棄物処分の取り組みについて、パネルディスカッションを実施。

（第一部）両国での経験の共有

- ・日本とフィンランド両国から、エネルギー政策・原子力政策についてプレゼン
- ・主催者の各代表に辰巳菊子氏（日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 常任顧問）、伴英幸氏（NPO法人 原子力資料情報室共同代表）を加えてパネルディスカッション実施（モデレーター竹内純子氏[国際環境経済研究所理事]）

（第二部）原子力の責任の構築（フィンランドの事例）

- ・Fortum（電力会社）Posiva（地層処分の実施主体）
STUK（原子力規制機関）VTT（技術研究センター）
FinNuclear Association（フィンランド原子力産業協会）による事業説明。
- ・ユッカ・シウコサーリ駐日フィンランド大使、近藤理事長による議論のまとめ

参加者 約130名



教育関係者向けの取り組み

「高レベル放射性廃棄物の処分問題」を学校での授業実践を目的とした教育支援

■ 全国の教育研究会組織の活動に対する支援（9地域11団体）

■ 全国研修会の開催

各地域の研究会の活動や授業実践の報告、意見交換を行い、全国大で情報共有。今年度は、2019年3月3日（日）開催予定。
（全国の小中高大学の先生方、約200名が参加予定。）

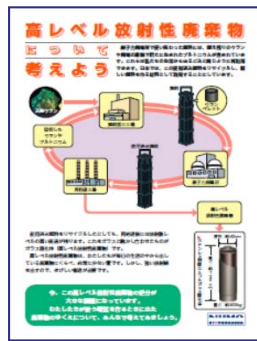
■ 授業拡大を目的とした新たな団体・教育関連イベントへの情報提供を実施
6回 106名（2019年1月時点）

■ 専用サイトでの情報提供（エネルギー教育支援サイト）
先生方が作成した指導案や授業レポート等を掲出

■ 基本教材の作成
小・中学校の授業で活用いただける教材を作成（2016年度）
教材を使った「モデル授業」を専用サイトで紹介



小学生向け



中学生向け



教師用解説



専用サイトでの情報提供



教育関係者によるワークショップ
（授業化の方法や授業実践の報告等）



全国研修会の様子

次世代層を対象とした広報活動

出前授業

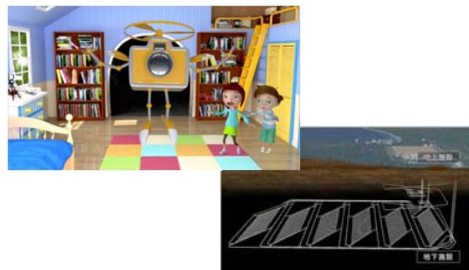
全国の小学校、中学校、高専、大学等の授業にNUMO職員が出向き、高レベル放射性廃棄物の処分に関する説明など情報提供を実施。

42回、約1,664人（2019年1月時点）

例）品川区立品川学園中学校、仙台市立館小学校 他

【授業内容】情報提供だけでなく、ニーズに応じた授業への取り組み

- ・ベントナイト実験
- ・アニメーション映像などの映像資料を活用
- ・話し合い、発表を交えた授業構成



小学校での出前授業の様子



地下研究所見学の様子

大学でのディベート講義への協力

2012年度から千葉大学教育学部で行われている地層処分をテーマとしたディベート授業への支援を実施。

■これまでに約314名の学生がディベート講義を受講（2019年1月時点）

■NUMOの支援内容

- ・専門家による講義（放射線、地層処分、地上保管について）
- ・再処理施設や原子力発電所など関連施設の見学会を実施

ディベートテーマ：高レベル放射性廃棄物を
地上保管すべきか、地層処分すべきか



学生によるディベート試合の様子

地層処分模型展示車（ジオ・ミライ号）等の出展

全国各地で模型やパネルの展示、子供向けの実験などを内容とする広報活動を実施

親子連れが集まる科学館や公園、地域イベント会場等へ出展。
ガラス固化体模型等の展示や3Dアニメの上映、ベントナイト実験や地層処分事業を解説する
パネル展示等を通して地層処分に関する情報を発信している。

また、ジオ・ミライ号のほか、外部団体の主催で多くの人が集まるイベントや、女性や学生などが多く集まる
イベントに広報ブースを出展。今年度は、会期中に10万人以上を集める「丸の内キッズジャンボリー」や
7千人を超える女性が来場した「WOMAN EXPO TOKYO 2018 winter」などに
広報ブースを出展した。

【2018年度実績】（2019年1月時点）
37か所 70日間実施 参加者 約19,085人



【ジオ・ミライ号イベント】



【3Dアニメーション放映】



【キッズジャンボリーへの出展】

次世代層を対象とした広報活動

デジタルハリウッドとの協働企画

コンペテーマ：高レベル放射性廃棄物の処分問題に対する関心喚起に向けたデジタルコンテンツの制作

- ・先端メディアの専門領域を教えるデジタル・ハリウッド(大学、大学院、全国10拠点のスタジオ)が主催する動画・ポスターの制作コンペに協賛。
- ・応募24作品の中から一次選考で13作品（映像10作品、ポスター3作品）が選定。
2018年10月30日に開催された作品発表会では、審査委員による最優秀賞、一般投票によるオーディエンス賞が表彰された。
- ・なお、デジタル・ハリウッド大学とは2016年度、2017年度に同大学が不定期で実施している「デジタル・ハリウッド アースプロジェクト」にテーマ提供企業として協力している。今年度の取り組みは、同大学のほか全国各地のスタジオで学ぶ在校生・卒業生にも参加対象を広げたコンペに協賛したもの。



【最優秀賞】動画
キミは、どう思う？（STUDIO渋谷）



【審査員特別賞】動画
ON LINE MESSAGE
（STUDIO渋谷）



【審査員特別賞】ポスター 知ること
未来は変わる（STUDIO米子）



【オーディエンス賞】動画
キッズ国際会議（STUDIO福岡）

【参考】WEBメディアを活用した情報発信

ホームページ

- ・タイムリーな情報発信
- ・多くの方にご覧いただくためにサイト内でイベントを実施。

【夏休み大作戦2018】 (2018年7月)

小学生向けの夏休み宿題（自由研究のテーマ）に地層処分に関連した題材を紹介した企画や、夏休み中に開催されるジオ・ミライ号イベントなどをまとめたページで構成。



【Instagramフォトコンテスト】 (2018年8月1日～9月18日)

夏休みの思い出の写真に「#グーモと夏休み」、「#グーモと一緒に」いずれかを付けてご自身のInstagramに投稿していただく企画。機構で選定した10作品はホームページで紹介するとともに、科学技術館（東京都千代田区）にあるNUMO展示コーナー「ジオ・ラボ」に掲示した。



メルマガ・SNS

- ・定期的な情報発信

【メールマガジン】

- ・発信数：月2回程度
- ・読者数：約7,600人（2019年1月時点）

【Facebook】

- ・フォロワー：約17,300人（2019年1月時点）



【Instagram】

- ・2018年3月スタート。
- ・フォロワー：約780人（2019年1月時点）



【YouTube】

Channel NUMO

- ・地層処分に関する様々な映像を掲載

